ＣＳＷの視点に基づく個別アセスメント

■ＣＳＷにおけ個別アセスメントの視点

○ＣＳＷにおける個別アセスメントは、生活の全体性から捉えることが重要である。この全体性を整理すると、①身体的状況だけでなく精神的状況もみること、②問題だけでなく強さもみること、③個人だけでなく周りの人々もみることである。こうした観点から地域で暮らす一人ひとりの全人的理解が求められる。

○身体的な状況だけでなく精神的な状況の両面からアセスメントを行う場合には、相手が大切にしている思いや価値観に注目することが求められる。一人ひとりの健康観や人生観、幸福観を踏まえた上での支援でなければ、これからの生活を主体的に築いていく動機付けにつながらない。

○支援者は、相手自身では解決できない問題に対して必要な支援を行うため、相手の弱さや問題に注目しなければならないが、それだけでは偏ったアセスメントになりかねない。必要な支援は相手を生かすが、必要以上の支援は相手の力を奪ってしまうことになる。そのため、有している力を奪わず、活かしていくためにも、どのような力を持っているかをアセスメントすることが求められる。強さを活かしたストレングス・アプローチを展開していくためには、リフレーミングが重要となる。これは、ややもすると問題として捉えられがちな情報を意識的に強さへ置き換えてみる視点である。

○本研修では、「個人」アセスメントではなく、「個別」アセスメントとしている。これは、個人だけでなく周りの人々の生活や関係もアセスメントを行うことを重視しているからである。特に家族の状況を全体的に捉え、周囲の人々への働きかけも視野に入れた支援を考えていくためには、ソーシャルサポートマップの作成が重要となる。

■ ■ ■ ワークシート１：グループ討議の進め方　■ ■ ■

このシートでは、家族全体を見る視点を養うこと、自分のアセスメントの視点を自覚し、広げていくことをねらいとしています。そのため、グループ討議の前の個人作業が重要となります。

まず最初に、事例を読んで家族構成員それぞれについて情報を整理していきましょう。次にこの事例を読んで、足りないと思った情報を書きだしてみましょう。この研修事例では、意図的に情報を落としています。あなたが足りないと思った情報は、あなた自身のアセスメントの視点を表しています。この個人作業を通して、自分が支援を行う上でどのような情報に注目しているかが見えてきます。さらに、この事例の家族一人ひとりの持っている力・強さ（ストレングス）を考えてみましょう。

その上で、グループのメンバーで不足情報やストレングスについて話し合ってみましょう。他のメンバーの視点を学ぶことによって、アセスメントの視野を広げていきましょう。